

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)吹田市市長野東 計画	階数	地上10F
建設地	大阪府吹田市市長野東	構造	RC造
用途地域	第一種住居地域	平均居住人員	204 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅,	評価の段階	
竣工年	2022年5月 0.0	評価の実施日	2020年6月10日
敷地面積	1,935 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社カノン アソシエイツ 一級建築士事務所
建築面積	702 m <sup>2</sup>	確認日	2020年6月10日
延床面積	4,250 m <sup>2</sup>	確認者	株式会社カノン アソシエイツ 一級建築士事務所



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 1.0 ★★★★★</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>☆☆☆☆☆</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値 100%</p> <p>②建築物の取組み 86%</p> <p>③上記+②以外の 86%</p> <p>④上記+ 86%</p> <p>92 (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質 Qのスコア = 2.8</p>		
<p>Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.0</p>	<p>Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.2</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 2.3</p>
<p>LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.1</p>		
<p>LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.2</p>	<p>LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 2.9</p>	<p>LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.1</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>良好な都市環境を形成し、賑わいのある街並みを維持するよう努める計画とした。また、敷地の栽植条件に応じた適切な緑地づくりを行うなど、環境に配慮している。</p>	<p>その他</p> <p>特になし。</p>	
<p>Q1 室内環境</p> <p>F☆☆☆☆の内装建材を採用し、室内空気環境に配慮している。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>耐用年数の長い配管を採用し、更新必要間隔を長くするよう努めた。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>敷地内には適切に緑化を施すことで地表温度の上昇を抑える計画とした。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>適切な断熱材を施し、外皮の熱負荷抑制に努めた。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>有害物質を含まない材料を使用するよう努めた。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>ライフサイクルCO<sub>2</sub>排出率を参照値より抑制し、地球温暖化への配慮をしている。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

# 大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

R2-0049

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】	建物名称	(仮称)吹田市長野東 計画
	建設地	大阪府吹田市長野東
	用途/区分	集合住宅

【評価結果】	CASBEE 総合評価		<b>B+</b>
--------	----------------	--	-----------

①	CO2削減		<b>4</b>
---	-------	--	----------

②	みどり・ヒート アイランド対策		<b>3</b>
---	--------------------	--	----------

③	建物の断熱性		<b>4</b>
---	--------	--	----------

④	エネルギー削減		<b>3</b>
---	---------	--	----------

⑤	自然エネルギー直接利用		<b>○</b>
---	-------------	--	----------

再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—	—	—
	太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—	—	—

エネルギー消費量の報告		対象外
-------------	--	-----

【評価項目】			
項目	評価内容	スコア	評価
① CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価	3.5	4
② みどり・ヒートアイランド対策			
生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価	2.0	3
敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価	3.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価	3.0	
③ 建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価	4.0	4
④ 設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価	3.1	3
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価	3.0	○
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	-

【その他】		
	技術の名称	考慮事項
先進的技術の導入		
特に配慮した事項		